

定期報告徴収により取得した情報の報告

平成 2 8 年 9 月 2 6 日（月）



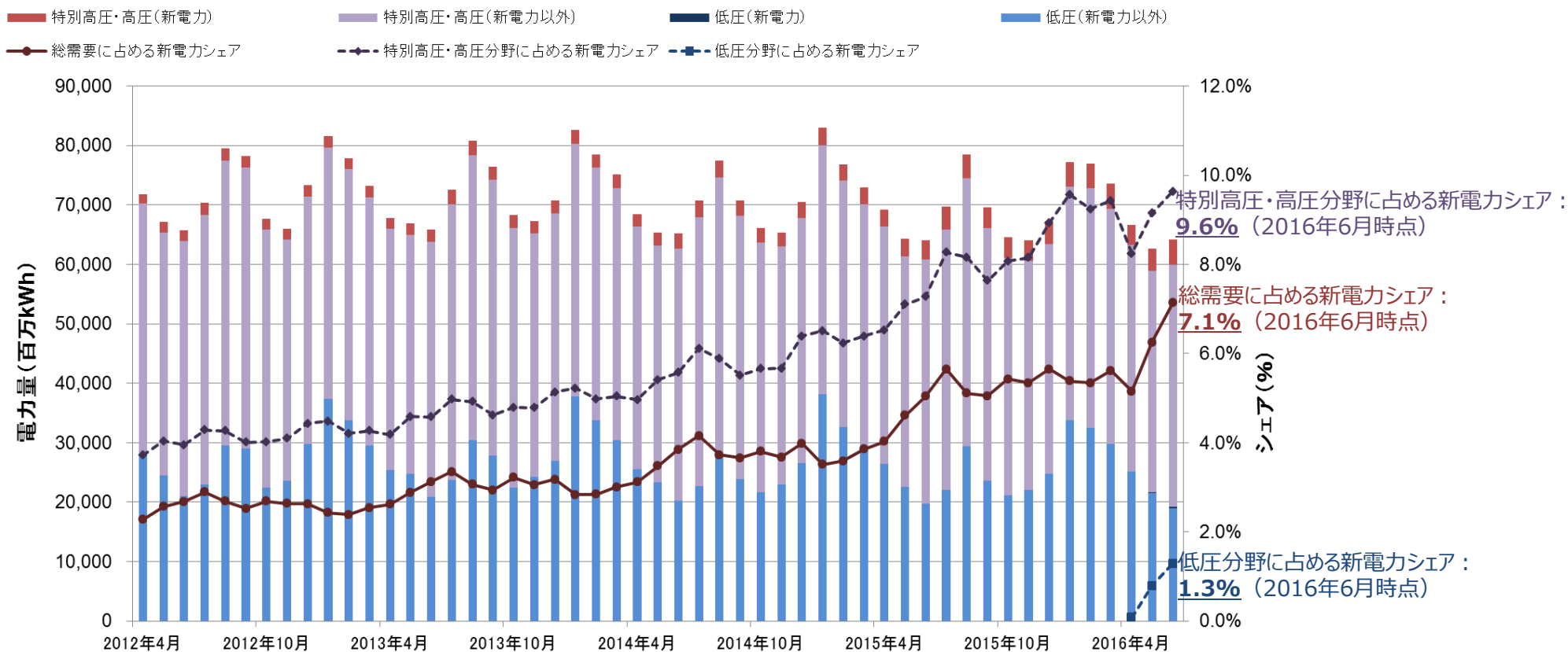
電力・ガス取引監視等委員会
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

新電力の市場シェア

小売取引

- 新電力の販売電力量シェアは増加しており、2016年6月時点において、特高・高圧分野における新電力シェアは約9.6%（前月：約9.1%）、低圧分野に占める新電力シェアは1.3%（前月：約0.9%）、総需要に占める新電力の市場シェアは約7.1%（前月：約6.0%）となっている。

新電力の市場シェア
(2012年4月～2016年6月)

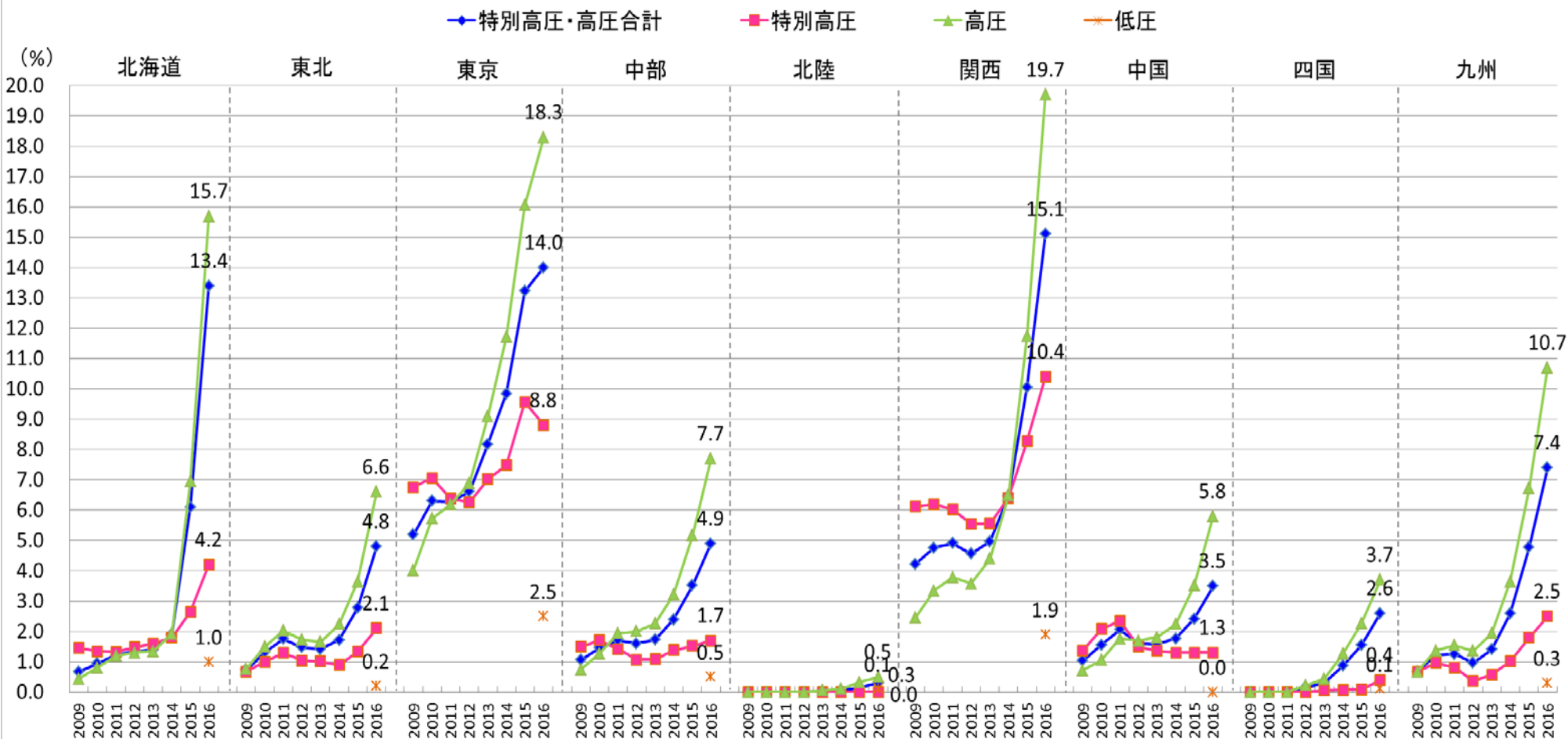


地域別の新電力シェア

小売取引

- 地域別の新電力シェアは、東京エリアの特別高圧分野を除き、すべて増加傾向にある。新電力の販売電力シェアが高い地域として、関西、東京、北海道が挙げられる。

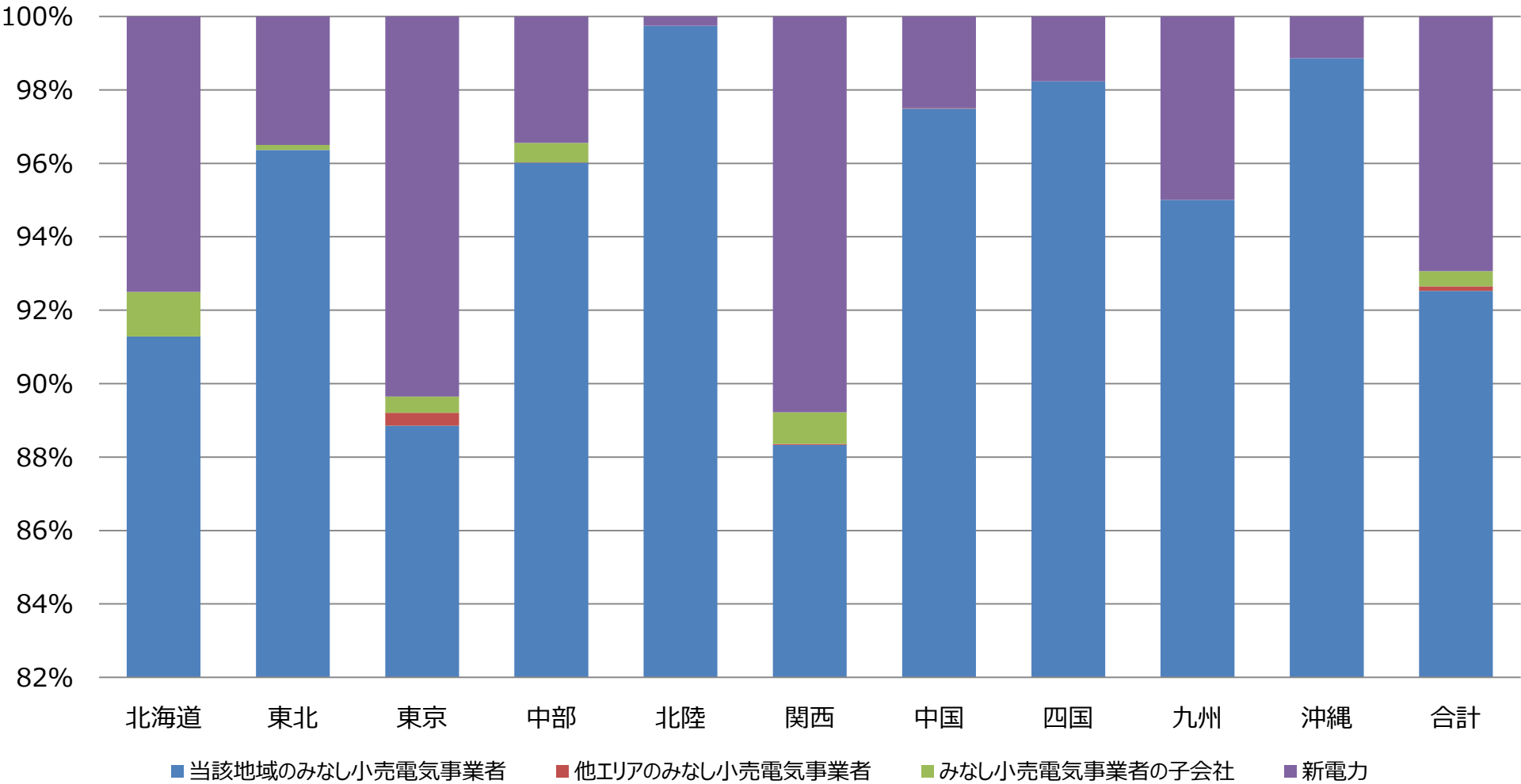
地域別の新電力シェア



地域毎の事業者別シェア（全電圧）

小売取引

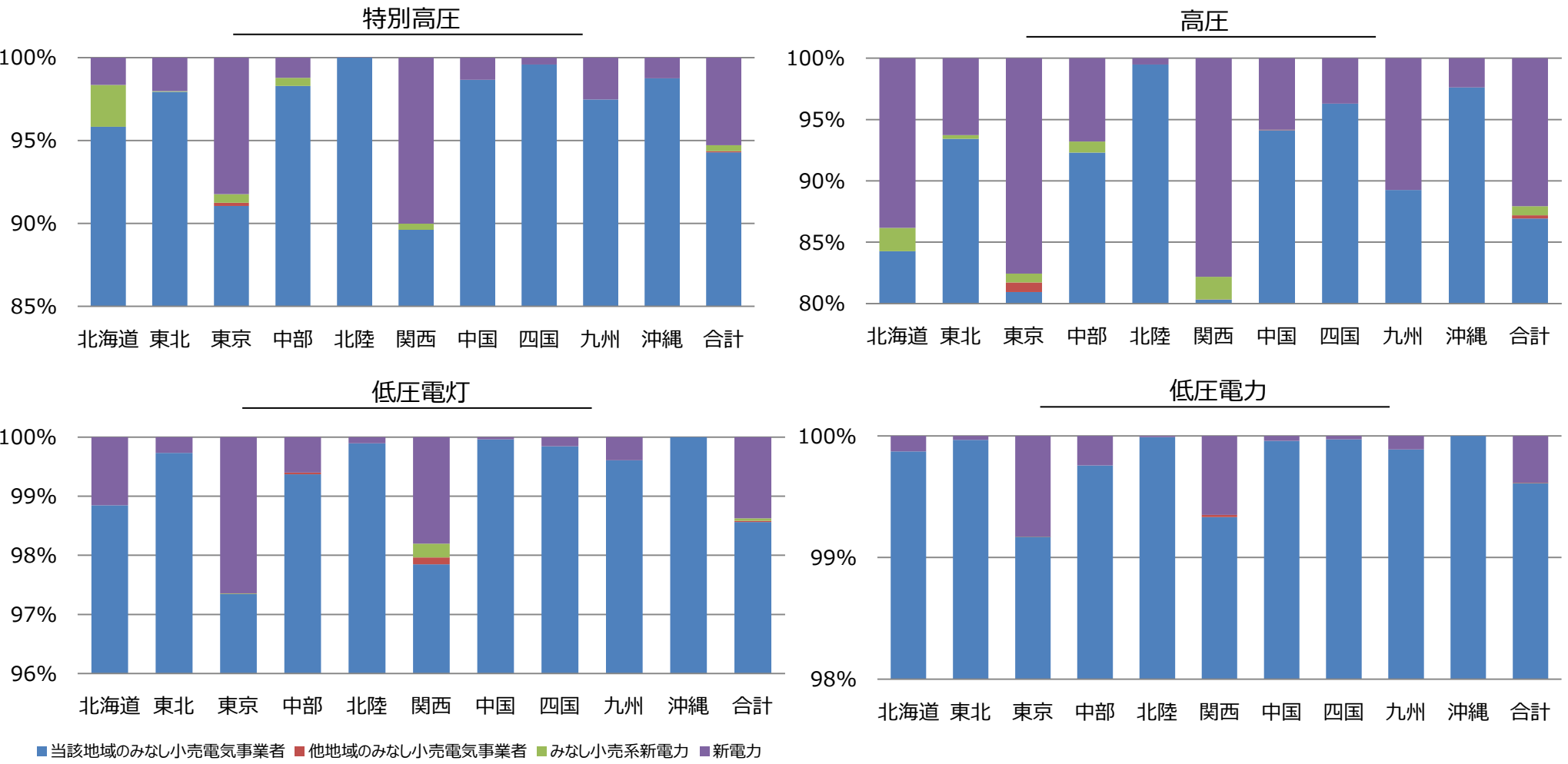
● みなし小売電気事業者及びその子会社による旧供給区域外への進出は進んでおらず、旧供給区域外への供給は全体の約0.5%（前月約0.5%）。地域別では、北海道、東京、中部、関西地域において域外供給が存在する。



地域毎の事業者別シェア（電圧別）

小売取引

● 特別高圧、高圧分野では、北海道や関西、東京を中心にみなし小売電気事業者やその子会社による旧供給区域外の電力供給が行われている。低圧分野では、みなし小売電気事業者やその子会社によるエリア外供給は一般的に進んでいないが、関西ではエリア外供給の割合が比較的多い。



【参考 1】平成28年6月の新電力の販売電力量シェア（全電圧）

小売取引

- トップ10社に変動はないが、東京ガス株式会社（低圧のみ販売）が先月と比較して大きく順位を上昇させている。新電力の低圧需要に占める東京ガス株式会社のシェアは約37%を占めている。

順位	事業者名	販売電力量(MWh単位)	新電力シェア
1 (1)	株式会社エネット	1,070,358	23%
2 (2)	株式会社 F-Power	631,134	14%
3 (3)	丸紅新電力株式会社	335,771	7%
4 (4)	J Xエネルギー株式会社	249,189	5%
5 (5)	オリックス株式会社	173,763	4%
6 (6)	サミットエナジー株式会社	140,018	3%
7 (7)	テプコカスタマーサービス株式会社	136,217	3%
8 (8)	日本テクノ株式会社	131,053	3%
9 (9)	新日鉄住金エンジニアリング(株)	120,218	3%
1 0 (10)	伊藤忠エネクス株式会社	107,862	2%
1 1 (11)	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	97,119	2%
1 2 (15)	東京ガス株式会社	89,861	2%
1 3 (12)	ダイヤモンドパワー株式会社	86,204	2%
1 4 (13)	エネサーブ株式会社	81,832	2%
1 5 (14)	昭和シェル石油株式会社	73,888	2%
1 6 (16)	イーレックス株式会社	73,576	2%
1 7 (17)	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	64,716	1%
1 8 (18)	大和ハウス工業株式会社	49,958	1%
1 9 (20)	株式会社エナリス・パワー・マーケティング	49,726	1%
2 0 (19)	大阪瓦斯株式会社	42,931	1%
新電力上位 2 0 社 合計		3,805,394	83%
新電力 合計		4,608,456	-

平成28年6月の新電力の販売電力量シェア（電圧別）

小売取引

順位	特別高圧	高圧	低圧
1	株式会社エネット	株式会社エネット	東京ガス株式会社
2	株式会社 F-Power	株式会社 F-Power	大阪瓦斯株式会社
3	丸紅新電力	丸紅新電力	J X エネルギー株式会社
4	J X エネルギー株式会社	オリックス株式会社	K D D I 株式会社
5	新日鉄住金エンジニアリング(株)	日本テクノ株式会社	株式会社東急パワーサプライ
6	サミットエナジー株式会社	J X エネルギー株式会社	株式会社ケイ・オプティコム
7	ダイヤモンドパワー株式会社	テプコカスタマーサービス	株式会社サイサン
8	テプコカスタマーサービス	伊藤忠エネクス株式会社	株式会社ジェイコムウエスト
9	アーバンエナジー株式会社	サミットエナジー株式会社	北海道瓦斯株式会社
1 0	エネサーブ株式会社	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	大阪いずみ市民生活協同組合
1 1	パナソニック株式会社	イーレックス株式会社	東燃ゼネラル石油株式会社
1 2	株式会社シナジアパワー	エネサーブ株式会社	静岡ガス & パワー株式会社
1 3	昭和シェル石油株式会社	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	サミットエナジー株式会社
1 4	凸版印刷株式会社	昭和シェル石油株式会社	株式会社ジェイコムイースト
1 5	伊藤忠エネクス株式会社	新日鉄住金エンジニアリング(株)	HTBエナジー株式会社
1 6	大阪瓦斯株式会社	大和ハウス工業株式会社	イーレックス・スパーク・マーケティング 株式会社
1 7	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	ダイヤモンドパワー株式会社	株式会社パネイル
1 8	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	株式会社エナリス・パワー・マーケティング	SBパワー株式会社
1 9	株式会社グローバルエンジニアリング	株式会社グローバルエンジニアリング	株式会社Looop
2 0	出光グリーンパワー株式会社	株式会社新出光	昭和シェル石油株式会社

卸電力取引所取引のサマリー（2016年8月）

卸電力取引所取引

- 2016年8月の卸電力取引所取引のサマリーは、次のとおり（括弧内は前年同時期の値）。

		対象期間 2016年8月	参考（過去3ヶ月）		
			2016年7月	2016年6月	2016年5月
JEPX取引会員数※1		114社	115社	112社	111社
スポット市場	売り入札量	88億kWh (89億kWh)	90億kWh (94億kWh)	69億kWh (69億kWh)	61億kWh (62億kWh)
	買い入札量	53億kWh (34億kWh)	49億kWh (31億kWh)	44億kWh (26億kWh)	42億kWh (27億kWh)
	約定量	20億kWh (14億kWh)	19億kWh (15億kWh)	16億kWh (12億kWh)	14億kWh (12億kWh)
	平均約定価格 （システムプライス）	8.68円/kWh (11.28円/kWh)	8.12円/kWh (11.22円/kWh)	7.81円/kWh (11.86円/kWh)	6.89円/kWh (11.00円/kWh)
	東西市場分断発生率	65.7% (62.2%)	66.1% (49.1%)	64.3% (14.0%)	73.4% (46.9%)
時間前市場※2	約定量	1.6億kWh	1.5億kWh	0.97億kWh	0.06億kWh
先渡市場	約定量、約定件数	0.13億kWh、34件 (0.51億kWh、9件)	0.08億kWh、18件 (0.03億kWh、8件)	0.03億kWh、4件 (0.01億kWh、4件)	0.05億kWh、5件 (0.01億kWh、3件)

※1 8月以降に加入した会員：伊藤忠プラントック株式会社（8月26日）。8月以降に脱退した会員：株式会社ハルエネ（8月31日）、株式会社アップルツリー（8月31日）。

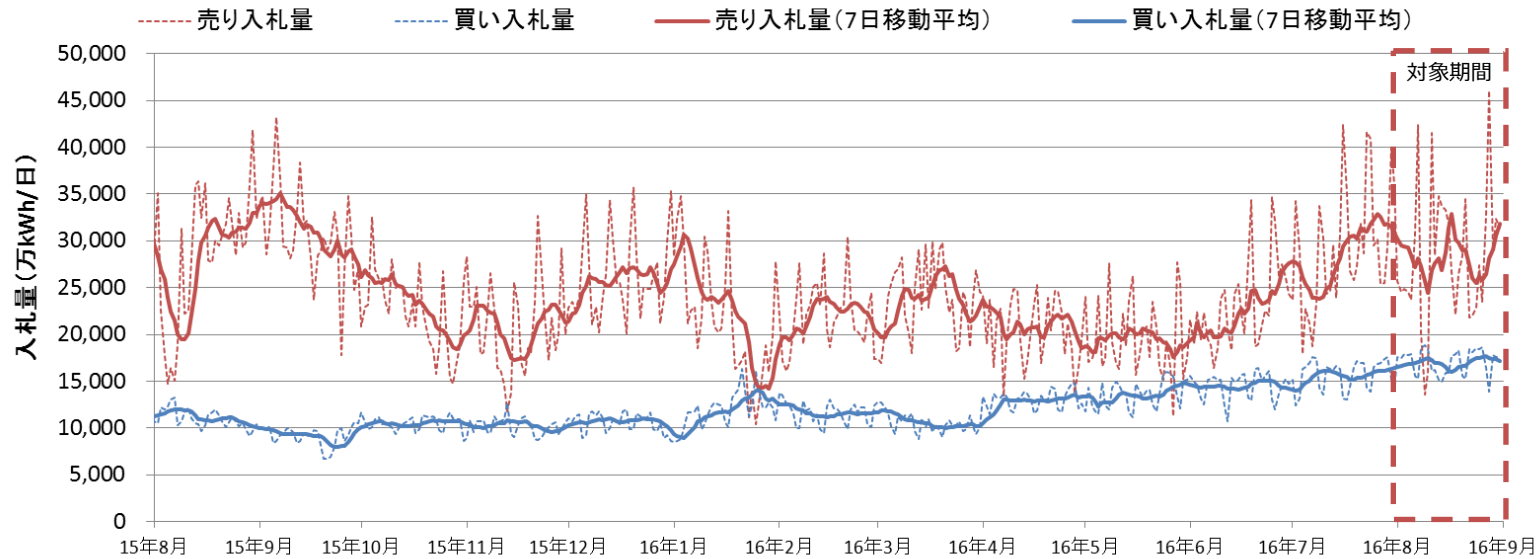
※2 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、昨年同時期の値は掲載していない。

スポット市場の入札量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の入札量は、売り入札量88億kWh、買い入札量53億kWhであった。
- 売り入札量は8月に入って増減を繰り返しており、買い入札量は増加している。
- 前年同時期対比は、売り入札量は横ばい、買い入札量は1.6倍となっている。

スポット市場 入札量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)



主要データ

売り入札量
(2016年8月)
88 億kWh

売り入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.0 倍

買い入札量
(2016年8月)
53 億kWh

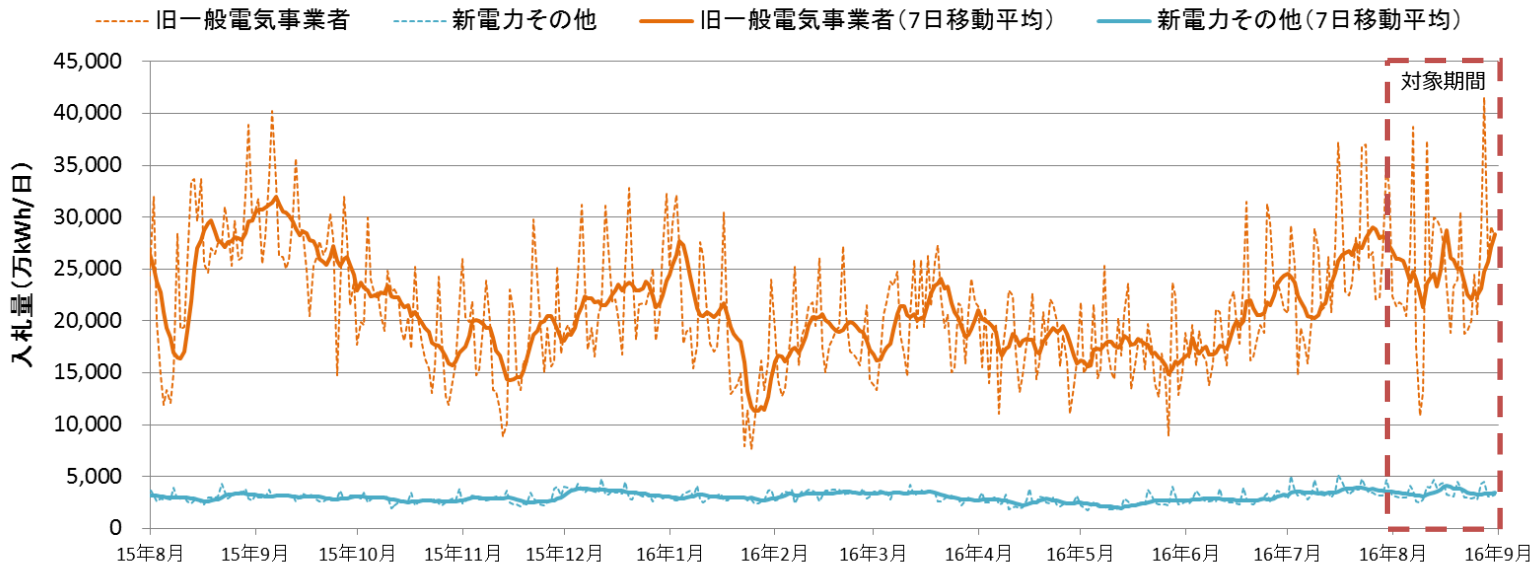
買い入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.6 倍

事業者区分別のスポット市場売り入札量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の売り入札量は、旧一般電気事業者は77億kWh、新電力その他の事業者は11億kWhであった。
- 旧一般電気事業者による売り入札量は8月に入り増減を繰り返した。他方、新電力その他の事業者による売り入札量は横ばいに推移しており、スポット市場の売り入札量の大部分が旧一般電気事業者によるものとなっている（全体の約88%）。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は横ばい、新電力その他の事業者は1.1倍となっている。

スポット市場 売り入札量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)



主要データ

旧一般電気事業者による
売り入札量
(2016年8月)
77 億kWh

旧一般電気事業者による
売り入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.0 倍

新電力その他の事業者による
売り入札量
(2016年8月)
11 億kWh

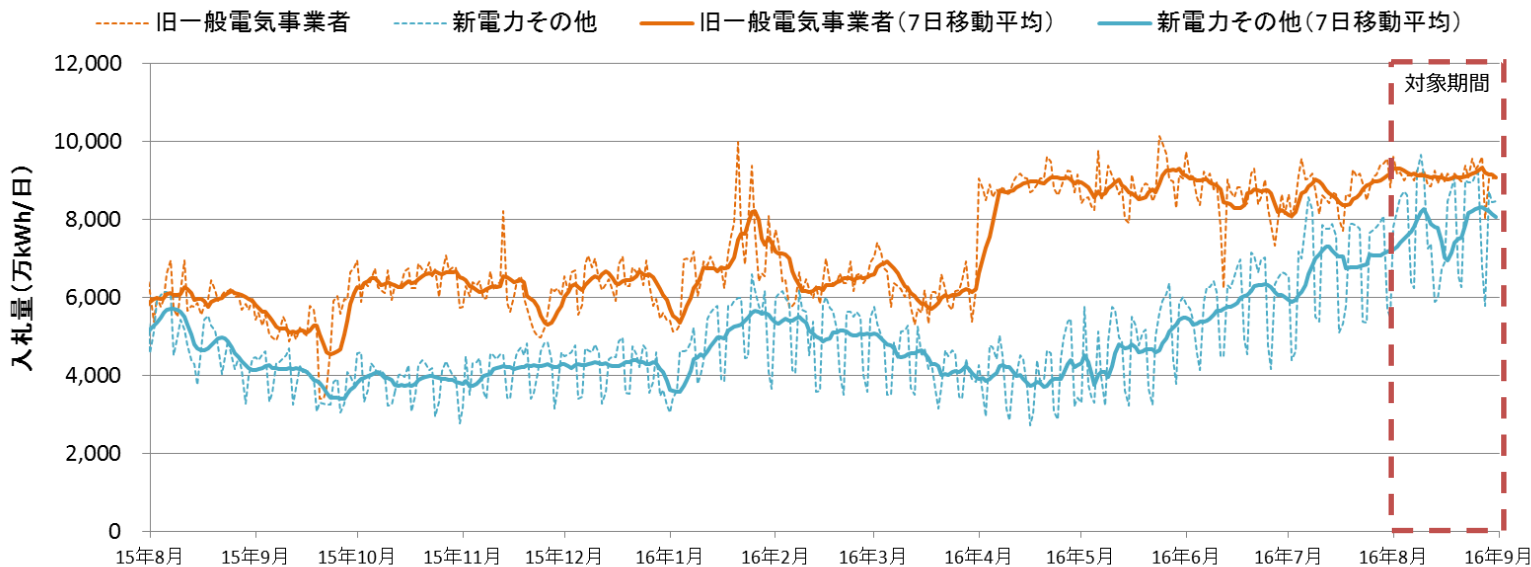
新電力その他の事業者による
売り入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.1 倍

事業者区分別のスポット市場買い入札量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の買い入札量は、旧一般電気事業者は28億kWh、新電力その他の事業者は25億kWhであった。
- 旧一般電気事業者による買い入札量は、4月に入ったタイミングで大きく増加した後は、ほぼ横ばいに推移している。他方、新電力その他の事業者による買い入札量は、5月以降増加しており、8月中旬に一度減少したものの、その後再び増加しており、旧一般電気事業者による買い入札量との差が縮まりつつある。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は1.5倍、新電力その他の事業者は1.6倍となっている。

スポット市場 買い入札量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)



主要データ

旧一般電気事業者による
買い入札量
(2016年8月)
28 億kWh

旧一般電気事業者による
買い入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.5 倍

新電力その他の事業者による
買い入札量
(2016年8月)
25 億kWh

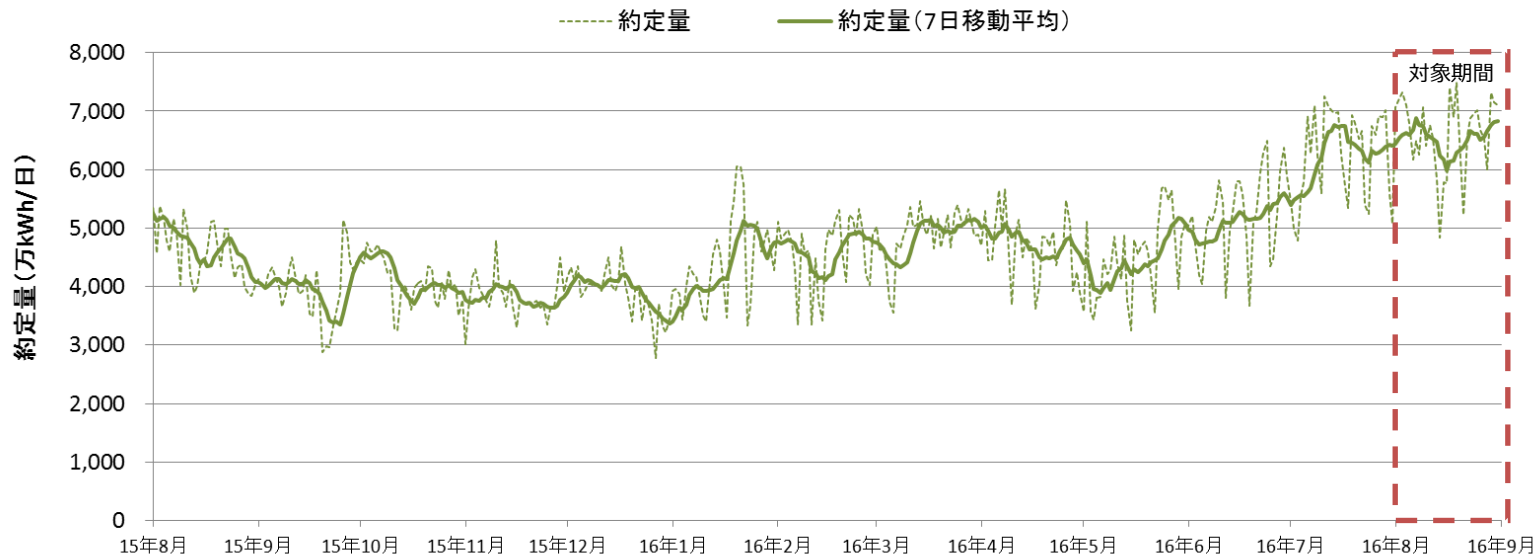
新電力その他の事業者による
買い入札量の前年同時期対比
(対2015年8月)
1.6 倍

スポット市場の約定量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の約定量の合計は20億kWhであった。
- 約定量は8月中旬に減少したものの、その後増加し、全体としては7月の約定量（19億kWh）に比べて増加した。
- 前年同時期対比は1.4倍となっている。

スポット市場 約定量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)



主要データ

約定量 (2016年8月)
20 億kWh
約定量の前年同時期対比 (対2015年8月)
1.4 倍

事業者区分別のスポット市場売り約定量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の売り約定量は、旧一般電気事業者は12億kWh、新電力その他の事業者は8億kWhであった。
- 旧一般電気事業者による売り約定量が8月前半に一度減少し、新電力その他の事業者による売り約定量との差が縮まったものの、8月後半に増加し、再びその差が広がった。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は2.0倍、新電力その他の事業者は横ばいとなっている。

スポット市場 売り約定量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)

主要データ

旧一般電気事業者による
売り約定量
(2016年8月)

12 億kWh

旧一般電気事業者による
売り約定量の前年同時期対比
(対2015年8月)

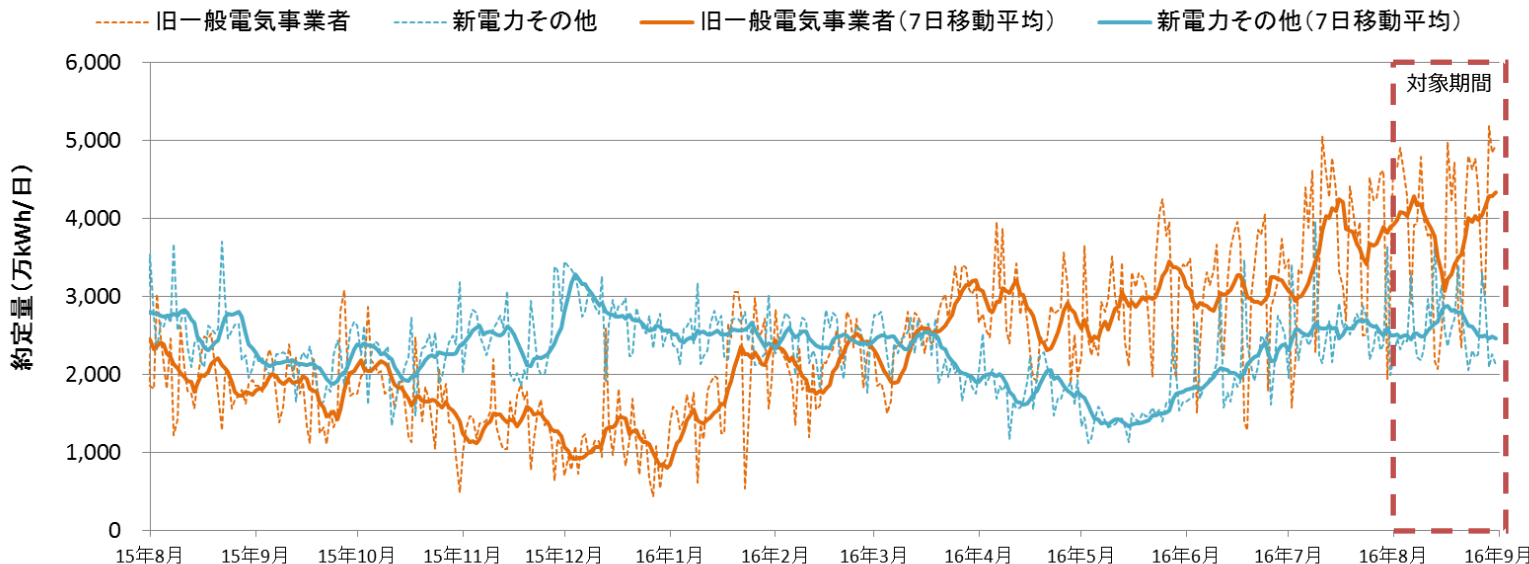
2.0 倍

新電力その他の事業者による
売り約定量
(2016年8月)

8 億kWh

新電力その他の事業者による
売り約定量の前年同時期対比
(対2015年8月)

1.0 倍

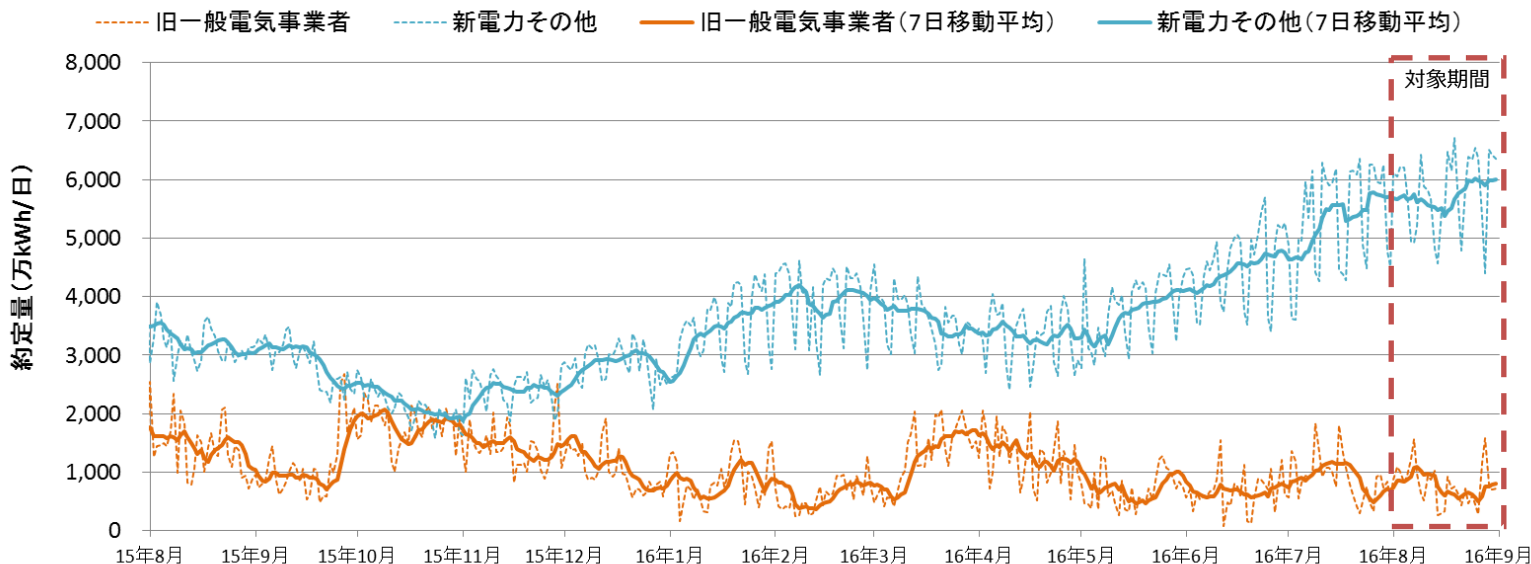


事業者区分別のスポット市場買い約定量

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるスポット市場の買い約定量は、旧一般電気事業者は2億kWh、新電力その他の事業者は18億kWhであった。
- 2016年5月以降、新電力その他による買い約定量が増加しており、8月も引き続き増加傾向にあった。一方で、旧一般電気事業者による買い約定量は減少傾向にあり、新電力その他による買い約定量との差が広がりつつある。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は0.6倍、新電力その他の事業者は1.8倍となっている。

スポット市場 買い約定量の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)



主要データ

旧一般電気事業者による
買い約定量
(2016年8月)

2 億kWh

旧一般電気事業者による
買い約定量の前年同時期対比
(対2015年8月)

0.6 倍

新電力その他の事業者による
買い約定量
(2016年8月)

18 億kWh

新電力その他の事業者による
買い約定量の前年同時期対比
(対2015年8月)

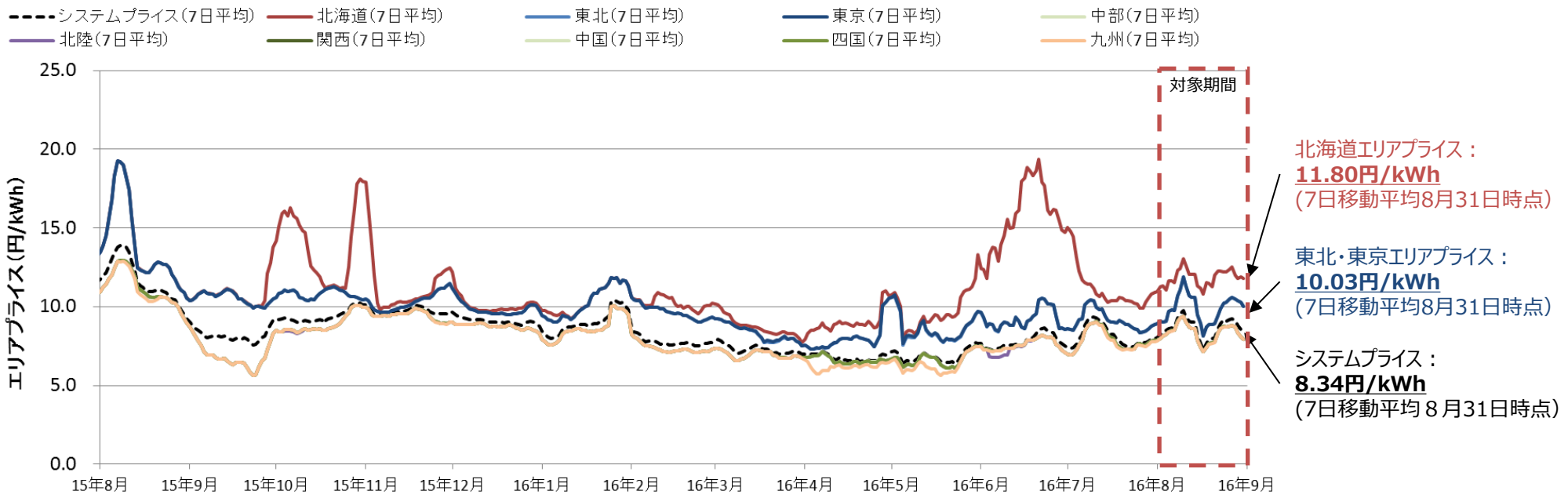
1.8 倍

スポット市場のエリアプライス

卸電力取引所取引

- 2016年8月におけるエリアプライス（7日移動平均）の推移を見ると、前月に引き続いて、北海道・東北・東京のエリアにおいてシステムプライスとの値差が生じており、8月末においては、システムプライス8.34円/kWhに対し、北海道エリアプライスは11.80円/kWh、東北・東京エリアプライスは10.03円/kWhとなっている。

スポット市場 エリアプライスの推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)

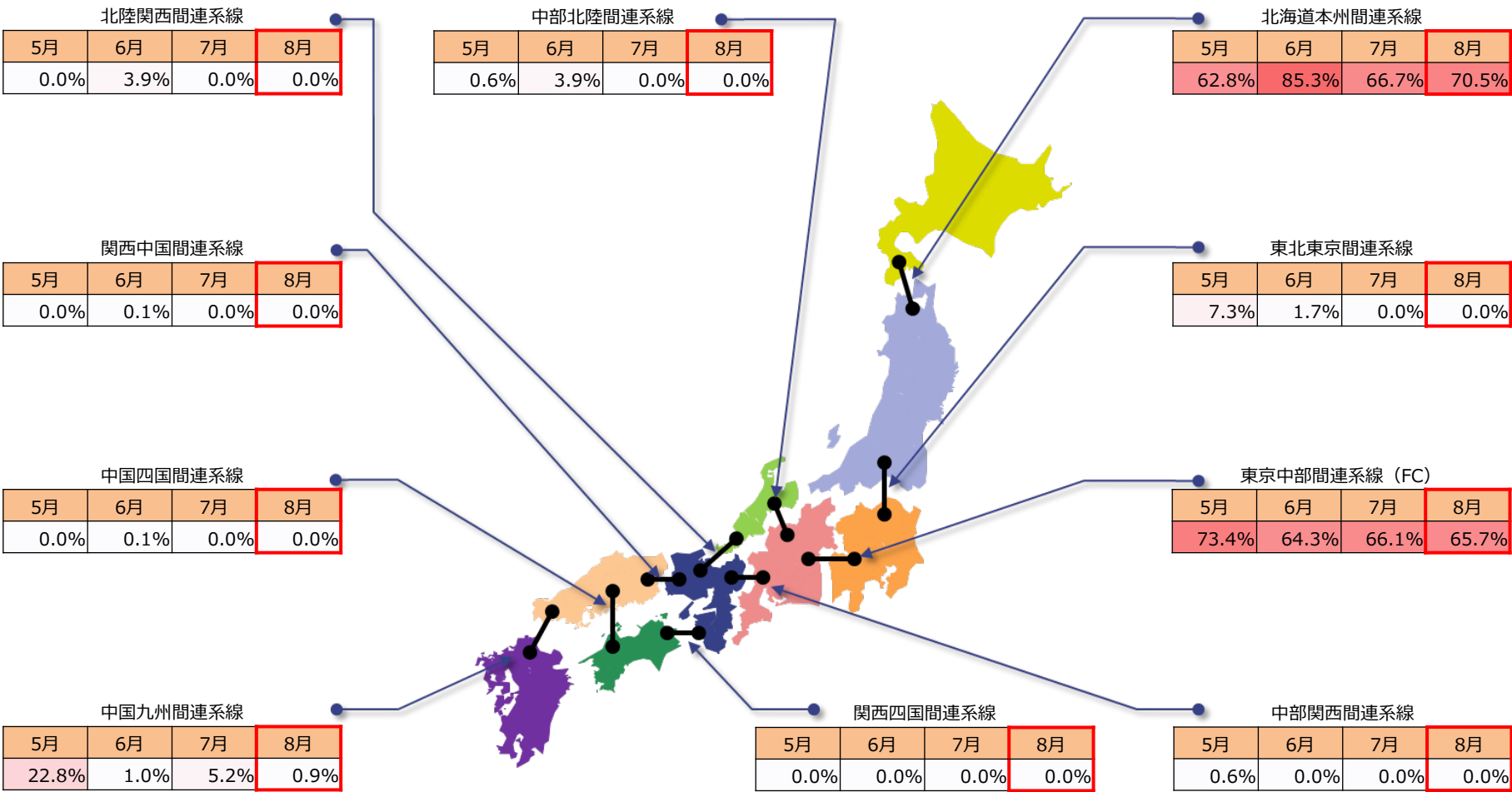


各地域間のスポット市場分断状況

卸電力取引所取引

- 各地域の市場分断状況を見ると、2016年8月においては、北海道本州間連系線は70.5%、東京中部間連系線は65.7%の頻度で分断が発生した。

各地域間連系線の月別分断発生率



※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。
※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

北海道本州及び東西の市場分断発生率

卸電力取引所取引

- 2016年8月においては、北海道本州の分断発生率（下図の赤線）は増減を繰り返し、8月末においては62%となっている。また、東西の分断発生率（下図の青線）は増加傾向にあり、8月末においては75%となっている。

北海道本州及び東西の市場分断発生率の推移
(2015年8月1日～2016年8月31日)

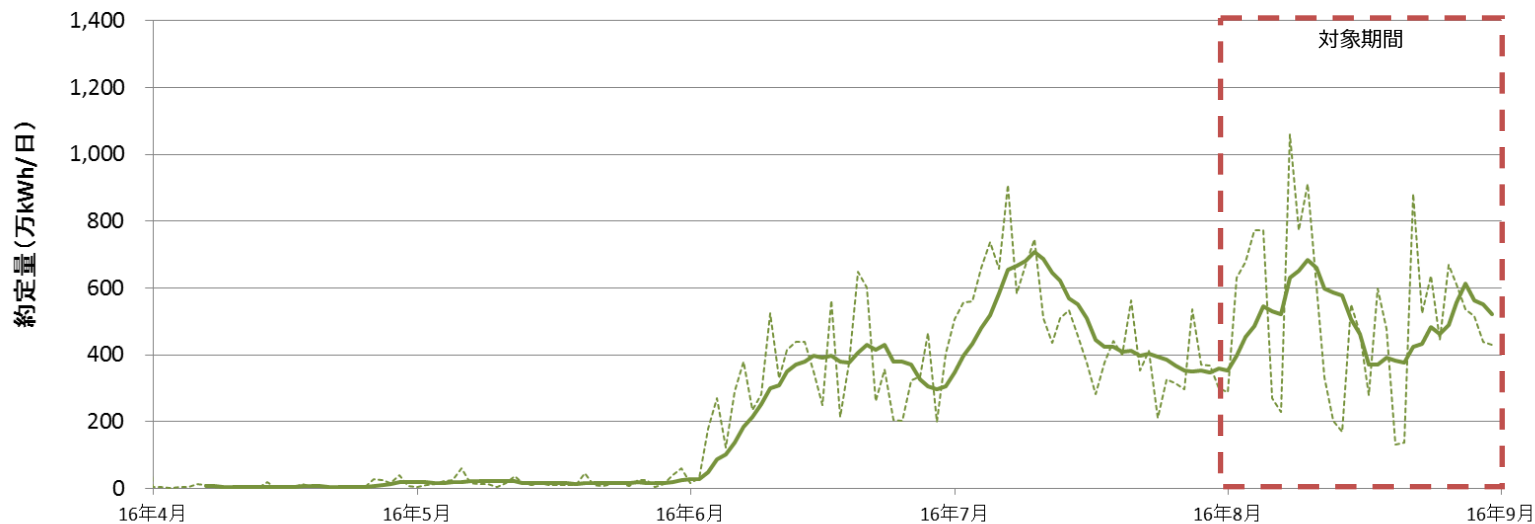


※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。
※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

- 2016年8月における時間前市場の約定量の合計は1.6億kWhであった。
- 8月上旬においては約定量は増加し、中旬に減少したものの、下旬に再び増加した。全体としては7月の約定量（1.5億kWh）に比べて増加した。

時間前市場 約定量の推移
(2016年4月1日～2016年8月31日)

----- 約定量 ——— 約定量(7日移動平均)



主要データ

約定量 (2016年8月)
1.6 億kWh

※ 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、2016年3月以前のグラフ及び前年同時期対比の値は掲載していない。